

会議等結果報告書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	169
		決裁期日	令和元年9月3日
名称	第2回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日時	令和元年8月20日（火） 18時20分～20時40分		
場所	役場3階 第3会議室		
出席者	協働のまちづくり推進委員 7人（別紙名簿のとおり） 向山町長 事務局：町民生活課 北越課長、自治推進班 床鍋主幹、大井主事 合計 11人		

【進行：事務局（町民生活課長）】

◎ **会長あいさつ**

本日はお忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。

第1回目の委員会において、町長との情報交換会に向けて「移住者との話し合い」の場を設けて、その中で出た話を町長に報告したいと提案したが、開催を見送った。それについてお詫び申し上げます。

◎ **町長との情報交換会に向けた打ち合わせ（18時20分から18時35分まで）**

19時から開催する町長との情報交換会に係る打ち合わせを行った。

【進行：持安会長】

1 議題

（2）協働のまちづくりパンフレットについて

持安会長：柴田委員と何回か話した中で、パンフレットに委員の方々が持っている「協働」に対してのイメージを載せてはどうかと考えており、どのようにまとめるか話し合う必要があると思っている。パンフレットは3月までに作成すればいいため、もう少し皆さんのご意見を聞きながら進めたい。そのためにも、今「協働」に対して皆さんがどのようなイメージを持っているか伺いたい。

黒川委員：始めは「協働」とはどんなことをやっているか想像するのが難しかった。委員会に参加して、すべての町民との接着剤のような働きをしているとわかった。もっと噛み砕いて説明しないと、町民にはわからないと思う。

菊池委員：町民の声を聞いて行政や議会が動くため、行政や議会が基本だと思う。行政の中で町民の声を直接聞くのが、協働のまちづくり委員会やフォーラムなどだと思う。どういうまちづくりをしたいかは本来議会でやっていくこと。

持安会長：黒川委員は協働は難しいと感じており、菊池委員はまちづくりの柱は行政や議会で決めるべきで、ある一つのテーマに基づいて町民が集まって意見を述べるのが協働で

はないのかということか。

黒川委員：主役は町民ということではないか。

菊池委員：主役は町民だと思っている。

柴田委員：どこが主導とかいうのではなく、みんな一緒にやっていく。

沼澤委員：少子高齢化で高齢者が多くなり、子どもが少なくなっている。子育て支援をどうしていくのか、近所の人たちでやっていくのか。乗り合いタクシーも地域でやっていくのか。最終的にそのような方向に向いて行ってしまいう気がする。

柴田委員：町内会や住民会のようにできることをそれぞれやって、議員や町に助けてもらう。全部やってくれる時代はもう過ぎてしまったように感じる。

持安会長：行政判断ではなく、自分たちでできることからやっていくことが協働ではないかということか。

柴田委員：待っていても自分たちの暮らしは良くなるしない。

持安会長：私は「協働」は対話だと思っている。一つのテーマに基づいて集まり、話をする中で、それぞれ自分の得意な分野をできる範囲で自分たちで活動していく。その活動の基本は「気がつくこと」であり、気づいたことをやっていく。自分の持っている能力を発揮しながら、地域の活性化につなげていき、地域の活性化が広がっていくとまちの活性化になり、まちが活性化すると多くの人に来てもらえたり、人口の増加に繋がるのではないかと考えている。集って話し合うことが、「協働」の第一歩になるのではと思う。

このようなことをパンフレットに表したい。

菊池委員：札幌に住んでいる親戚の葬式に出たことがあるが、町内会の加入率が50%前後のため、運営を親戚で行った。町内会長は出てくれるが、あとは業者をお願いしなければ物事が進まなかった。上富良野のような人口の少ない町は行政が手厚く色々なことをやってくれるため、いいまちだと感じる。

柴田委員：上富良野も地域によってはそういうところもある。

菊池委員：パンフレットを作るのにも色々な意見を入れなければならないと思う。

持安会長：パンフレットはA3で1枚としたい。今後委員を半分ずつに分けて話し合い、まとめていきたい。3月までに完成できればと思っている。

(3) その他

持安会長：12月の「まちづくりフォーラム」について、前回の会議で準備委員会を立ち上げたが、準備委員会ではなく全員で話をする事としたい。日程調整は行わず、都合のいい人に集まってもらう。日程を決めて連絡するので、よろしくお願ひしたい。昨年度は12月に開催が決まり、2月末までにネット会議も含めて4～5回準備委員会を行っている。

(1) 町長との情報交換会 (19時10分から20時25分まで)

◎ 会長あいさつ

町長におかれては日ごろから町民の声を自らの声として一生懸命町の活性化のために、将来像を「暮らし輝き 交流あふれる 四季彩のまち・かみふらの」としてご尽力いただき感謝申

し上げる。本日はお忙しい中情報交換会にご参加いただき、お礼を申し上げます。

① 町長挨拶

本日はお疲れのところ協働のまちづくり推進委員会を開催いただき感謝申し上げます。また、委員会の皆様におかれては大変ご精力的にこの取り組みに参加いただき、私どもも大変参考にさせていただいている。本日は意見交換をさせていただけるということで、私も期待感を持って出席させていただいている。限られた時間となるが、今日は有意義な意見交換とさせていただきたいのでよろしくお願ひしたい。

② 会長説明

町長との情報交換会資料（『まちづくりフォーラム』まとめ）について説明。

③ 懇談会

持安会長：フォーラムは「10年後のかみふを思い描き、今を眺めて、なすべきことを知る」といった流れで行った。

『2 10年後の理想のかみふとはどんなまちですか』という問いに色々な意見が出たが、①かみふの農産物を守るまち、②移住者に寛容なまちの2つについて、参加した委員から感じたことや補足したいこと等をご発言いただきたい。

柴田委員：まちづくりフォーラムの準備委員として打ち合わせや準備をしていたが、参加者がその場で話をしてくれるか、どんな人が参加してくれるか不安だった。まちづくり推進委員として何年間かやっているが、フォーラムなどの参加者はいつも同じ人で残念に感じていたが、今回は初めて参加する人が多く、色々な意見の中でも農産物に興味を持っている方が多いと感じた。

持安会長：私は魅力の一つに景色があると思う。この景色を守っているのは農家の方で、農家を守ることが上富良野を守ることになるのではと感じた。農家を継ぐことも大切、就農していただくことも大切でそういったことも考えていかなければならない。そのために自分に何ができるのかを振り返っていた。

森本委員：フォーラムに参加して、他のまちから来た方が上富良野にとっても関心を持っていると感じた。赤えんどうの生産が日本一など私自身まだまだ上富良野の知らないことが発見できた。

持安会長：②移住者に寛容なまちに「継続した相談業務ができる町」とあり、窓口業務は行政でも継続となると地域の問題ではと感じた。声かけから始まり、顔が見える関係づくりにより住み着いていただき、色々なものが生まれるのではないかと思う。

沼澤委員：現在、草分住民会の会計は元防衛施設局の方がしてくれている。パソコンも使え、とても助かっている。草分地区に住んでいたが、声をかけてみると快く引き受けてくれ、活動に協力してくれている。対話が大切と感じた。

向山町長：議員在任中から最初から結論を導く、答えを一つに絞るという習慣がついている。お話を伺い、答えを絞らなくていいことに開放感を感じている。意見を集約するときに、考えを曲げざるを得なかったり、思いと違う方向に行かざるを得なくなることも多い。お互いに意見を述べ合い、その中から取捨選択をできるということは非

常に新鮮味がある。そのため町民と対話する機会を多く持ちたいと思っている。町民は行政情報の中から色々なことを述べられるが、そこにヒントがある場合もあり、このような意見はぜひこれからは生かさせてもらいたいと思っている。

「10年」はあっという間。明日の上富良野だという意識で話をされるともっと具体的な話に結びついていくと感じた。中でも農業分野はなかなか答えが出ない。常に次の世代のために種まきをするのが今の世代だと教えられてきたが、種をまかなければ芽は出ない。現状にこだわりを持たないで、将来に向けた取り組みが必要。農業分野は時間はかかるが町にとって重要である。農業も大切だが、農家が大切。農家を守っていきたい。

持安会長：次に『1 今、あなたが「かみふってどんなまち？」と聞かれたら、どう答えますか』だが、③安全・安心な美味しい農作物のまち（赤えんどう日本一）、④新規就農厳しいまち、この2つについて感じたこと等を伺いたい。

菊池委員：新規就農厳しいまちとあるが、農業だけでなく移住者全般に言えると思う。町内出身者と町外出身者では、子どものころからの共有できる思いがないため何十年たってもよそ者のように感じる。仕方がないことだが、このことも関係しているのでは。

森本委員：東中には、もともと農家ではなかったが土地や機械を買って就農し、農家を長くやっている方がいる。以前より農家らしくなっているが、周りの人たちによくしていただいて今があると言っていた。また、東中は子どもをとっても大切にする地区のような気がする。色々な地区の子どもを指導しているが、東中の子どもは安心して指導ができる。地域の力をとても感じる。

持安会長：移住してきた方が住みやすくなるには、地域の力が大切になってくる。家の近くに住んでいるネパールの方とは5年前から話すようになり、今では家族で付き合いをしている。その方は防災無線や回覧、学校関係の文書が来てもわからないことが多いが、ゆっくり日本語で説明すると理解してくれる。一緒に教育委員会に行き手続きをしているが、それらにより上富良野はとてもいいまちと喜んでいる。「移住者（よそ者）に冷たい町（でも、子供ができれば一緒に喜んでくれた町）」とはそういうことだろうと感じた。地域のつながりは大切だとフォーラムで感じた。

柴田委員：移住者の近くに親切な方がいるとその人は溶け込んでいるが、一方でなかなか溶け込めず不満がたまり、それでもここに住まなくてはいけないと思っている方もいる。そういった人たちのために町の力を借りて対話やコミュニティのスペースを設けて、そういった人たちを助ける場があればいいと思う。上富良野には移住者にいい住宅がなく、美瑛に行ってしまったという話を聞いた。移住者のための住宅がかなり古いところが多く、予算の問題もあるが、少し変えるだけでも住みたいと思ってもらえるのでは。また、上富良野の特徴として家賃の高さがどうにかならないのかと感じる。

向山町長：新規就農者について、町として過去に大きく反省したことがある。平成10年ごろまで町の条件不利地で多くの離農者が出たが、遊休農地を作りたくないために、農業委員会で新規就農者を大量に受け入れた時代がある。何十年も農家をしてきた方がうまくいかなかった土地で素人がうまくいくわけがなく、行政はそこに気がつかない

かった。今は職業として成り立たない条件不利地には就農させないように指導している。そういった反省から、しっかりと農業で生業が立つような条件の整ったところや、小規模でもハウスなどで高収益をあげられるよう、今は町がバックアップをし、多くの方が成功している。

移住者については、北海道の人は元来誰でも受け入れるという気質を持っていると思う。自分なりの努力も必要だが、地域の協力も必要だと思う。

持安会長：次に『3 では、10年後、理想を叶えるには何が必要だと思いますか』について、⑤移住者の声を生かして人口増加、⑥町外への軽易な情報発信、⑦地産地素材特産品の開発に力を結集について、思ったことや感じたことをお願いしたい。

水島委員：若い人の力はすごい。若い人の意見を聞いていると、私たちの年代には考えもつかない意見が出てくる。まちづくりフォーラムに対する私の意見にも「そんなことを言っては何もできない、方法はいくらでもある」と言われた。若い方がたくさんフォーラムに参加してくれて、まちに仕事がないという意見も多かったものの、今は自宅でも仕事はできるので、そういった情報も行政に頼るばかりではなく、自分たちで発信するともっといいまちになるのではという意見も多く聞こえた。私にとって関心と驚きのフォーラムだった。議員として若い方も活躍してもらえるようなので、若い人の力を行政に取り入れるともっといい町になると思う。

持安会長：若い人のエネルギーはすごい。フォーラムを開催するにあたって色々な話を聞かせてもらい、若い方々に引っ張られたという思いがある。「移住者の声を聞く場を設けて施策に反映」とあるが、地域には多様で色々な考えを持っている方がいて、そういった方々が自由に意見を言える場づくりをして、その中から生まれ出るものが地域力を上げていくと思った。移住者というくくりではなく、色々な方の意見によって「気づき」になり、行動につながると感じる。

黒川委員：赤えんどうはとても体にいいため、特産品としては。6次産業として生産・加工・流通すると雇用や税収の問題が少しは解消し、まちが活性化するのでは。また、流行しているボルダリングの施設があると、オリンピックを目指す人が町に来て、移住につながったり、自衛隊員や子ども、お年寄りの体力増進に利用できる。

持安会長：最後に『4 ハーベスト「自分にできる次の一歩」』について、皆さんの身近なところでフォーラムに参加して、新たな活動をした方や団体があればご紹介していただきたい。

柴田委員：フォーラムが終わってすぐに、凌雲閣の青野さんが中心となりSNSで情報を発信する「かみふのいいとこ教えたい」としてFacebookでグループを作り、現在情報発信者が41人いる。上富良野で新しいお店のオープン情報やイベント情報などを発信していて、具体的に情報発信について考えている人が多くなっている。

持安会長：「かみふのいいとこ教えたい」が立ち上がり、いいとこ教え隊員は13人いる。今後どんな活動をしていくのか話し合ってみようと考えている。また、上富良野高校で地域の魅力や課題を探す活動をしており、「いいとこ教えたい」とコラボして発信する場を設けてもいいのではと考えている。大町住民会では、地域の課題を持ち寄

って解決していくために定期的に話し合う、「協働サロン」を立ち上げたいと思っている。北海道社会福祉協議会の補助事業として4年かけて活動する。住民会だけでなく、町内全体にも声かけをしたい。

菊池委員：「泥流地帯映画化を進める会」について、観光シーズンの谷間を埋めるのが泥流地帯の映画化だと思っている。商業・観光業者は期待しているが、現況はどのようなになっているのか知る機会がほしい。

森本委員：ある方に上富良野は緑がきれいといいと言われたが、私は富良野や美瑛も素晴らしいという、富良野や美瑛は利益を目的にしているからと言われた。それはあたりまえのことで、利益の出さないことでまちづくりはできないと思う。自然を守ることとまちづくりをすることは両立できないのか。

向山町長：両立できる。

森本委員：両立できる方法を考えていかなければならない。

持安会長：今回色々なお話を伺って、対話の重要性と対話の場づくりの重要性を感じた。

予定の時間となったため情報交換会を終了する。町長におかれては、本日はお忙しい中出席いただき感謝申し上げます。最後に一言お願いしたい。

向山町長：先ほどから情報発信についての話があるが、何年か前に上富良野に転勤してきた自衛隊員の方々が町外から通っている方が目立ったため、なぜ上富良野に住まないのか聞いたことがある。転勤前にインターネットで上富良野の住宅情報がなかったという理由だった。行政にも責任はあるが、ネットの活用が上富良野は遅れていた。最近では若い方がそういった知識を持っているため、行政も極力情報発信はしている。移住者に対する町の対応については、「頑張れば報われるまち」という雰囲気づくりに行政はもっと知恵を出すべき。移住者をどうやってサポートするかは行政は力点を置き、地域の人はどう迎え入れるか。

行政課題を進める中で、こういった対話を恒常的にする必要があると感じる。議会では形式を重んじるため、スピーディな対応が困難な場合もある。町民の方は様々なことを求めているが、それにスピーディに答えていけないもどかしさを常に感じている。スピード感のあるまちづくりは行政、議会だけではなく町民の皆さんを巻き込まなければできない。町には大きな行政課題が多くあるが、明日にでも結論を出したいもどかしい気持ちである。

泥流地帯の映画化に関しては、ロケを通じて町の魅力アップや閑散期にも人が訪れてくれる仕掛けづくりをしたい。本州の有名なロケ地は、ロケが終わってから何年もお客さんが絶えない。映画作りの状況は、我々の思いと制作会社とのマッチングができれば、11月頃には町民の皆さんに発表できると思う。

最後に、上富良野には優しい人ばかりで目が血走ったようなギラギラした人がいなさすぎると感じる。特に、一定の人生経験を積んだ中堅の方に旗振りをやってもらいたい。そういう方がいるとまちはガラッと変わる。そしてスピード感を持ったまちづくりを一緒にしたい。

◎ 副会長あいさつ

町長におかれてはお忙しい中出席いただき感謝申し上げます。短い時間の中に意義のある言葉がたくさん聞こえてきたと感じている。くくりのない中でざっくばらんにお話できたことは委員会にとってもとても有意義な時間だった。町長の言葉で力をいただいたので、一人ひとりがまちづくりにまい進できるように頑張っていきたいと思う。

2 その他

次回会議について

次回会議は、10月23日（水）18時30分から役場3階第3会議室で行う。

12月のフォーラムは12月6日（金）18時から保健福祉総合センターかみんホールで行う（その後講師との日程が合わず12月13日（金）に変更）。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページで公開】